

② 社会学グループ運営委員会

委員会は、20年12月、21年2月の計2回開催し、社会学教育における学士力を検討した。委員会では、社会学が取り扱う範囲が政治や法律が密接に包含されているので、範囲の限定が難しく、到達能力の表現が多岐に亘るおそれがある。生活のための利害調整、処世術と連携しないことが多く、人間の心のあり様など生活に根ざした意識に関する問題もある。対象を地域とするのか、産業とするのか、意識合わせが重要である。

しかしながら、社会学を学ぶことにより、社会を全体社会論の枠組みとしてとらえ、発想が豊かになることが確認された。なお、到達度の測定には、フィールドワーク、チームでのワークショップなど、人間力を見極めるような試験が望ましい、などの意見があった。学士力の策定については、社会学そのものを専門とする教員と他の分野を専攻する上で必要に応じて社会学的アプローチを行っている教員との間で社会学に求めるものについてギャップがあり、共通認識を持つに至らなかった。